

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- インフルエンザが報告されはじめています。今後の動向に注意が必要です。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。
- 水痘が瀬谷区で警報レベル、神奈川区で注意報レベルとなっています。

全数把握の対象

- 1 **デング熱**:1 件の 2 型の報告がありました。インドネシア(バリ島)での動物・蚊・昆虫からの感染が推定されています。デングウイルスは 4 つの型(1 型、2 型、3 型、4 型)に分類され、たとえば 2 型にかかった場合 2 型に対しては終生免疫ですが、6 ヶ月もすれば他の型に感染する可能性が出てきます。この場合、デング出血熱(致死率数%~0.3%)になる確率が高くなるといわれているので注意が必要です。
 ◆横浜市衛生研究所:デング熱・デング出血熱について <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/dengue1.html>
 ◆国立感染症研究所:デング熱 http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/k04_50/k04_50.html
- 2 **チクングニア熱**:1 件の報告がありました。インドでの動物・蚊・昆虫からの感染が推定されています。チクングニア熱、デング熱ともに発熱、発疹、疼痛(関節痛)を 3 主徴とし、両者の臨床鑑別は難しく、アジア・アフリカに多く、分布域もほぼ一致します。このため実験室診断が必須です。どちらも患者はすべて渡航先での感染であり、患者の渡航歴等の問診が重要です。また、媒介するヒトスジシマカは、日本でも東北地方に至るまで広くみられ、タイヤや空き缶に残っている非常に少量の水でも繁殖できるため、対策が困難な蚊であり、国内侵入に際して注意が必要です。
 ◆横浜市衛生研究所:チクングニア熱 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/chikunguniya1.html>
- 3 **レジオネラ症**:1 件の肺炎型の報告がありました。解体作業に伴う塵埃感染が推定されています。
- 4 **アメーバ赤痢**:2 件の腸管アメーバ症、1 件の腸管外アメーバ症の報告がありました。腸管アメーバ症の 1 件は海外での経口感染、もう 1 件は国内での異性間性的接触が推定されています。腸管外アメーバ症は国内の経口感染が推定されています。
- 5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:1 件のニューモシスティス肺炎を発症した AIDS の報告がありました。国内での異性間性的接触です。
- 6 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:1 件の vanC 型の報告がありました。感染経路感染地域等不明です。
 ◆国立感染症研究所:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_16/k02_16.html
- 7 **風しん**:10 代の 1 件の報告がありました。発疹、微熱等を認め血清 IgM2.22 でした。予防接種歴は不明です。

定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**:徐々に増加傾向ですが、第 50 週では市全体で定点あたり 0.58 と、流行の目安である 1.00 を下回っており、例年より流行が遅い傾向です。ただ、西区 3.00、都筑区 2.25、南区、1.80、港南区 1.38、港北区 1.00 となっており、区によってはすでに流行期に入っています。迅速キットの結果は 8 割ほどが A 型で、残りは B 型です。全国のウイルス検出結果では、多くが AH3 で、残りが B 型であり、現在のところほとんど AH1N1pdm09 は検出されていません。横浜市衛生研究所では、まだ多くのウイルスの検出はされていませんが、今後流行期の検出状況について適宜報告していきます。

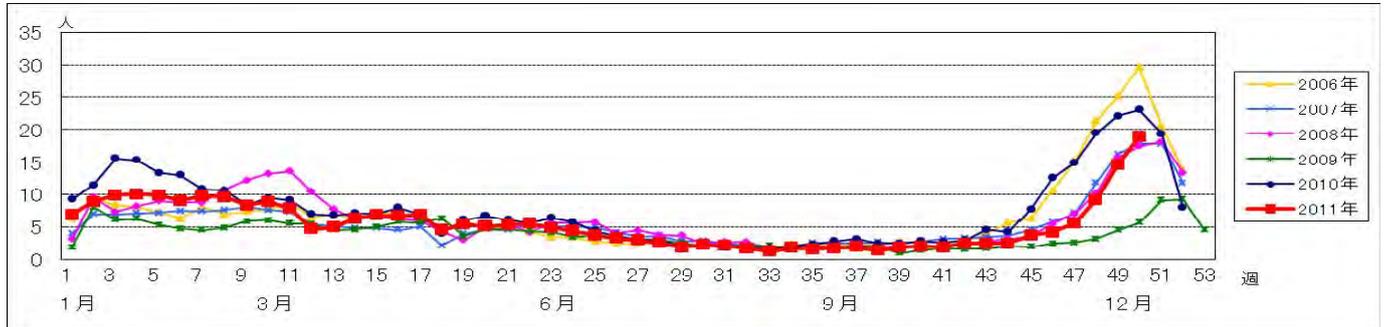
平成 23 年 週一月日対照表	
第 46 週	11 月 14~20 日
第 47 週	11 月 21~27 日
第 48 週	11 月 28~12 月 4 日
第 49 週	12 月 5~11 日
第 50 週	12 月 12~18 日

◆国立感染症研究所:インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/12 シーズン <http://idsc.nih.go.jp/iasr/influ.html>

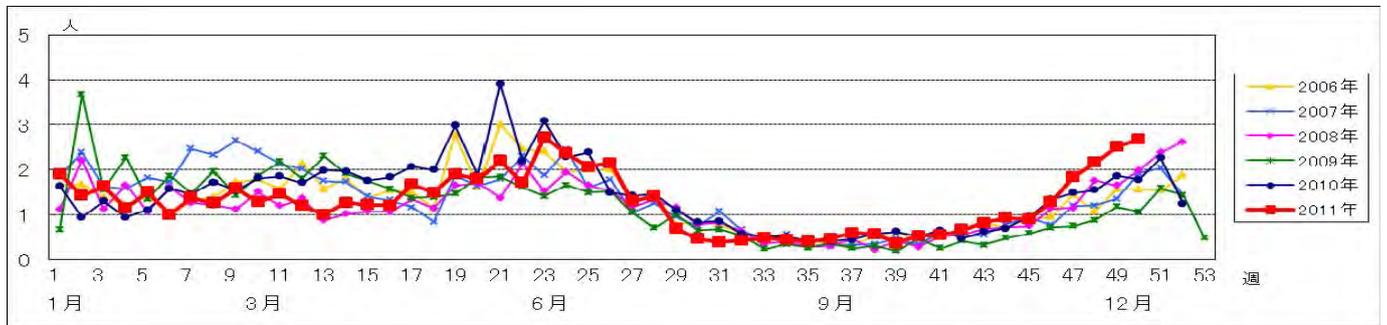
2 **感染性胃腸炎**:第50週では、市全体で18.86と警報レベルの20.00に僅かに届いていないものの、神奈川区38.83、磯子区26.50、緑区26.00、都筑区23.33、西区21.67と警報レベルを上回り、流行しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

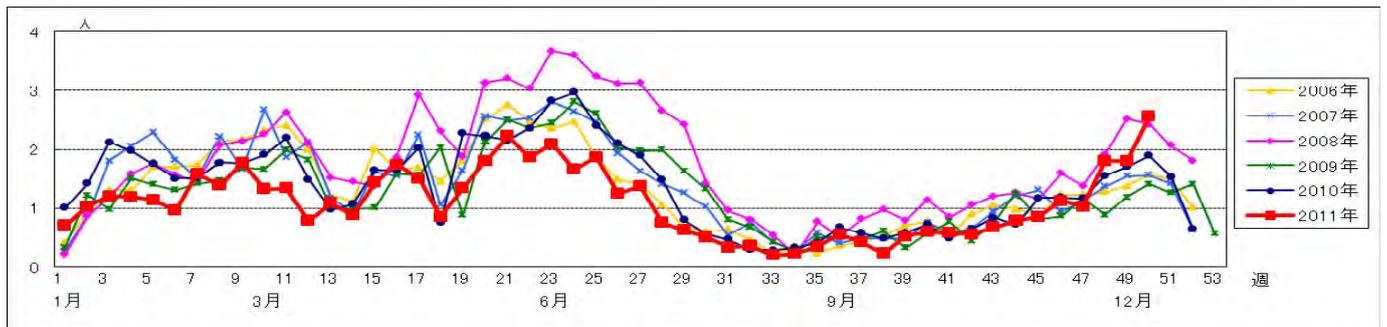
◆横浜市衛生研究所:感染性胃腸炎臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/gas/gas201150.pdf>



3 **水痘**:市内全体では47週1.84、48週2.16、49週2.51、50週2.68と少しずつ上昇し、注意報レベルの4.00を下回っているものの、例年より多い報告が続いています。区別では瀬谷区10.25で警報レベル、神奈川区5.00で注意報レベルとなっており、今後の注意が必要です。



4 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市内全体では注意報レベルの8.00を大幅に下回っているものの、47週1.04、48週1.81、49週1.80、50週2.56と少しずつ上昇しています。区別では栄区10.75で警報レベルとなっており、今後の注意が必要です。



5 **性感染症**:11月では、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が2件でした。

6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に第24週頃から増加傾向にあり、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、49週では1.51と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第46週では定点あたり3.00、47週1.67、48週4.00、49週2.50、50週2.00と、昨年の46週0.00、47週4.00、48週0.50、49週0.00、50週0.50を概ね上回っています。無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7 **基幹定点月報**:11月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症3件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>